

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地理総合	
科目基礎情報							
科目番号	0011			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	社会基盤工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「高等学校 新地理総合」（帝国書院）、「新詳高等地図」（帝国書院）、「高等学校 新地理総合ノート」（帝国書院）						
担当教員	松岡 由佳						
到達目標							
1. 人口問題や地球環境をめぐる課題について、地図やデータを用いた考察ができる。 2. 世界の気候や自然環境と防災について、地図やデータを用いた考察ができる。 3. グローバル化や生活文化をめぐる現代的課題について、地図やデータを用いた考察ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	人口問題や地球環境をめぐる課題に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		人口問題や地球環境をめぐる課題に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		人口問題や地球環境をめぐる課題に関する学習項目の理解が不十分である。		
評価項目2	世界の気候や自然環境と防災に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		世界の気候や自然環境と防災に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		世界の気候や自然環境と防災に関する学習項目の理解が不十分である。		
評価項目3	グローバル化や生活文化をめぐる現代的課題に関する発展的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて多面的な考察ができる。		グローバル化や生活文化をめぐる現代的課題に関する基礎的な学習項目を理解し、地図やデータを用いて考察できる。		グローバル化や生活文化をめぐる現代的課題に関する学習項目の理解が不十分である。		
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 D							
教育方法等							
概要	現代世界は、グローバル化によって国々の結び付きが強まるとともに、それぞれの国や地域は様々な課題に直面している。この授業では、そうした現代世界を多面的に理解するための、地理的な知識や技能を養うことを目指す。また、地球的課題の解決に向けたSDGsの取り組みなどにも注目する。						
授業の進め方・方法	板書やパワーポイントを用いて授業を進める。授業時間外の課題として、予習もしくは復習のための課題に取り組んでもらう。知識の習得にとどまらず、授業内容に関連する事柄について自分なりに考えることを大切にしてほしい。						
注意点	◎教科書等の忘れ物、授業中の居眠り、携帯電話の使用等は減点の対象となるので、十分に注意すること。 ◎課題の提出遅れは減点の対象となるので、必ず提出期限を守ること。 ◎インターネットからのコピーや他人のレポートの写しと判断した提出物は、すべて0点とするので、十分に注意すること。 ※授業内課題やグループワークを実施することがある。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって、授業内容の一部を変更する場合がある。 ※本科目は学修単位（2単位）の授業であるため、履修時間は授業時間30時間と授業時間以外の学修（予習・復習、課題・テスト等のための学修）を併せて90時間である。自学自習の成果は、課題によって評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 1. 人口問題①		・地理総合での学習内容・学習方法を理解する。 ・世界の人口について理解できる。		
		2週	2. 人口問題②		・発展途上国と先進国の人口問題について理解できる。		
		3週	3. 世界の気候と人々の生活①		・気候や植生と人びとの生活との関わりを理解できる。		
		4週	4. 世界の気候と人々の生活②		・各気候帯の特徴を理解できる。		
		5週	5. 地球環境問題①		・多様な環境問題とその背景を理解できる。		
		6週	6. 地球環境問題②		・地球温暖化の背景を理解できる。		
		7週	7. 地球環境問題③		・森林破壊の背景を理解できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	9. 中間試験の解答解説と補足		・中間試験で間違った箇所やその関連事項を発展的に理解できる。		
		10週	10. 自然環境と防災		・自然環境と災害・防災の関連を理解できる。		
		11週	11. グローバル化する世界① 国家間の結び付き、交通・通信		・現代の国々を結び付ける様々な要素や、交通・通信のグローバル化の現状や課題を理解できる。		
		12週	12. グローバル化する世界② 産業		・産業のグローバル化の現状や課題を理解できる。		
		13週	13. 生活文化をめぐる現代的課題①		・世界の国や地域の事例をもとに、生活文化をめぐる現代的課題を理解できる。		
		14週	14. 生活文化をめぐる現代的課題②		・世界の国や地域の事例をもとに、生活文化をめぐる現代的課題を理解できる。		
		15週	定期試験				
		16週	試験答案返却・解答解説		・間違った箇所を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文社会科学	社会	社会	世界各地の人口、資源、産業の分布や動向、並びにそれらをめぐる地域相互の結びつき等について理解し、現代社会を地理的観点から説明できる。	3	後1,後2,後10,後11,後12
				人間と自然環境との相互作用を前提としつつ、民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後10,後13,後14
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後11,後12,後13,後14

評価割合						
	定期試験	レポート	新地理総合ノート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	10	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	0	0	0	20